中学校一年　チャレンジ　話すこと・聞くこと

この音声問題は、第一学年国語問題の冒頭に放送するものです。

はじめに、話すこと・聞くことにチャレンジしましょう。今から一回だけ、音声による問題を放送します。よく聞いて、あとの問いに答えてください。問題用紙は開かないでください。表紙のあいているところにメモを取ってもかまいません。

田中さんの学級では、国語の時間に、「日本の伝統文化」について学習しています。田中さんの班は、「昔から伝わる言葉遊び」について調べました。今日は、田中さんの班が発表をする番です。田中さんの発表テーマは、「伝統文化のすばらしさ」です。あなたも、この発表会に参加しているつもりで、話を聞きましょう。

田　中　　わたしは、「伝統文化のすばらしさ」というテーマで調べたことを発表します。まず、次の録音を聞いてください。

※　競技かるたの音（十秒）

田　中　　皆さん、今の音は何の音だと思いますか。これは、「競技かるた」をしているときの音です。皆さんは「かるた」と聞いてどんなものを想像しますか。「犬も歩けば棒に当たる」、「論より証拠」などのことわざを使った「いろはかるた」などを想像するのではありませんか。しかし、熊本には、熊本の方言を使った「熊本弁かるた」、熊本県の重要無形民俗文化財に指定されている人吉の「うんすんかるた」、また、熊本に住んだことのある夏目漱石の俳句をもとにした「漱石俳句かるた」など、その地域にゆかりのある「かるた」がたくさんあります。わたしたちの班では、いろいろな「かるた」について調べていく中で、この「競技かるた」に出会いました。

「競技かるた」は、「畳の上の格闘技」とも言われています。さきほどの音からも分かるように、札を取り合うときの激しさからそう呼ばれています。百分の一秒を争う素早さと判断力、さらに、集中力も必要な競技です。わたしも、実際にこの「競技かるた」を見学させていただいたのですが、想像していたよりもずっと迫力のあるものでした。

この「競技かるた」に取り組まれている山本さんは、「競技かるたには、競技としての厳しい面もありますが、伝統文化としての大きな魅力もあります。」という話をされました。また、「競技かるた」の伝統文化としての魅力について、二つのことを教えていただきました。

まず一つめは、「日本古来の言葉がもつ味わいを感じられること」でした。「競技かるた」では、百人一首を使いますが、百人一首の歌を覚える中で、五・七・五・七・七の三十一音が作り出す独特のリズムや、言葉の巧みな使い方に気付くことができるということでした。山本さんは、何度も歌を声に出して読み、暗唱することで、日本古来の言葉のもつ音の響きの心地よさにいつもひきつけられるそうです。

そして、二つめの魅力として挙げられたのが、「古典の世界が身近に感じられること」でした。「競技かるた」は、日本特有の競技であり、長い歴史の中で創り上げられてきた日本の伝統文化の一つです。この伝統文化に、実際に携わることで、昔の人の生活や思いを想像することができ、今の生活を見つめなおすことができるそうです。山本さんは、日本の伝統文化に触れるためには、実際に「競技かるた」をやってみることも大切だと話をされました。

わたしたちの身のまわりには、「かるた」を始めとした言葉を使った遊びがたくさんあり、昔から伝わる美しい言葉の響きを身近に味わうことができます。わたしたちは、この美しい言葉の響きを大切にしていく必要があると思います。

日本には、「かるた」以外にも、すばらしい伝統文化がたくさんあります。わたしは、日本の伝統文化のすばらしさをもっとよく知り、それを伝えることができるようになりたいと思います。

これでわたしの発表を終わります。

放送はこれで終わりです。

それでは、問題用紙を開いて始めてください。